2014·7·10 VOL. 49 NO. 2 (通巻152号)

巻頭言:鈴木 晃・1

平成27年度卒業研究テーマ・2~3

新任紹介・3~5

第30回建築文化賞(復興賞)受賞:浦部智義・6

アーキテストコース見学会・6

学術論文・発表論文/教室ニュース・7

教職員名簿・8

■ 日本大学・工学部・建築学教室 ■

3年ほど前になるだろうか。「人工 衛星の破片が人に当たる確率が1/ 3,200]というニュースが話題となり、 宝くじに当たる確率と比べていかに も高そうな気分になった人も少なく ないようだ。だが、それは地球上の 誰かに当たる確率であって(宝くじ のほうは必ず誰かには当たることに なっているらしい)、ある特定の人 (たとえば私) に当たる確率は1/ 21兆となるらしい。そのあたりの事 実をとらえながら、日本の「浴槽内 での溺死」を引合いにだし、その危 険性のほうが今回の人工衛星の破片 が当たるリスクに比べ、6億倍にも なることを述べた記事があった(石 井敏郎「人工衛星落下よりお風呂の ほうが怖い? | 『Web R25』2011. 9.26.)

ヒートショックという言葉で認知されるようになってきた入浴中の事故、「寒い浴室、暑いお湯」の温度差が主たる原因で、二つの地域性のなかで発現している。福島はおそらく日本国内でもハイリスク下にあると思われるが、それは必ずしも表面化しておらず、そこには別の地域文化が影響しているのかもしれない。

人口動態統計 (2010年) の「家庭内の不慮の事故死」によれば、「浴槽内での溺死」が3,977人で、全体の家庭内事故死の28%を占め、転倒や転落、食物の誤嚥等による窒息、火災などをおさえて最大の要因となっている。しかし話はそれではおさまらない。結論から言うと、実態はこのおよそ5倍の人が、入浴中に浴槽で急死していると考えられるのである。話が少々ややこしくなって恐縮だが、要点だけは記すことにしよう。人口動態統計の死亡統計は、医師の書く

死亡診断書あるいは死体検案書がも とになっている。このうち、普段診 療していない見ず知らずの死体を調 べて、その原因等に関する判断結果 が記載される死体検案書では、必ず しも客観性をともなっていないもの も少なくない。とくに日本ではその 判断のために解剖されることは少な く、判断材料は何もないという状態 も多い。同じ状況で浴槽で急死した 場合でも、医師によって事故死と判 断され「溺死」となったり、病死と 診たてられ、たとえば「心疾患」の なかにカウントされたりする。事故 死は世間体が悪いという家族の心情 を配慮した病死扱いも、地域によっ ては少なくないともいわれている。

入浴中の事故 ロハスの家と福島の課題

教授 鈴 木 晃

東京消防庁と東京都監察医務院による実態調査(1999年)によると、入浴に起因して救急搬送された事例では、「溺死」より「病死」扱いのものが多いのだが、両者に解剖学的な差異は認められず、「病死」も含めて「入浴中の急死」という概念で推定すると、2010年では、その概念で推定すると、2010年では、全国でおよそ1万9千人が入浴中に急死しておよそ1万9千人が入浴中に急死しており、より関心が払われるべき事柄であろう。

なお二つの地域性とは、国際的に みた日本、および国内でも北陸・東 北地方におけるハイリスク傾向であ る。前者は首まで湯に浸かる日本固 有の入浴文化、後者は浴室周りの貧 しい暖房環境による室内気温の低さ が関係している。ちなみに外気温が より低い北海道の脱衣室の温度は福 井県のそれよりも高く、「浴槽内での 溺死 | 率の順位は低い方に位置して いる。ただし、いずれも「(浴槽で の) 溺死」という死亡統計でしか比 較できないため、入浴中の事故のリ スクを正確に評価することはできな い。福島県の「浴槽内での溺死」率 は、東北・北陸地方のなかでは高い とはいえない。死体検案書の記載の され方に、地域文化を背景とした隠 された特徴があるのかもしれない。

首まで湯に浸かる入浴文化は健康に悪影響を与える側面がある一方で、おそらくストレスの緩和といった好影響ももたらしているであろう。「寒い浴室」にそのような健康増進効果を期待することはできるのであろうか。20数年前の会津若松での農家調査の折、「寒い、でもこんなもんだ」と高齢者から評価されていた外風呂外便所の印象がいまだにつよく残っている。

WHO欧州支局によるHealthy Housingの要件では、災害や感染症から人命を守ることが最優先課題である途上国のニーズから、多様化高度化した先進国のそれまでを幅広く扱っている。現在の日本は、少なくとも平時においては前者の課題に直面していると考えられる。ただ、特別な住文化を有することに起因して、特別な住文化を有することに起因して、合を脅かすリスクが放置されてきたことも事実のようだ。Healthy Housingに関する福島の課題には確実に挙げられるテーマであろう。

卒業研究テーマ一覧 平成27年度

建築ゼミナールを受講する学生は、ここに記載されて いる卒業研究テーマを参照のうえ、所属する研究室を選 択しましょう。

構造・材料系

出 村 克 宣 教授〔論文〕 齋 藤 俊 克 助教〔論文〕 建築材料学研究室

- 1. ポーラスコンクリートの性能改善
- 2. 竹補強コンクリート・モルタルの開発
- 3. 鉄筋コンクリート構造物の補修システムの開発
- 4. 高機能性塗料の開発
- 5. 遮熱材料・システムの開発

サンジェイ・パリーク 准教授〔論文〕 鉄筋コンクリート(RC)構造・材料研究室

- 1. 高強度コンクリート及び高強度鉄筋を用いた柱・梁接合 部に関する実験・解析
- 2. RC構造物の耐震補強に関する実験・解析
- 3. 簡易剛性試験装置を用いた各種コンクリートの応力度-ひずみ度特性および破壊解析
- 4. 建築用内装材・外装材の防火性能
- 5. 自己修復型(インテリジェント) コンクリート
- 6. 防せい剤による鉄筋コンクリート構造物耐久性改善
- 7. インド歴史的石造建造物・インド住宅の調査研究

■構 造

浅 里 和 茂 教授〔論文〕 鋼構造デザイン研究室

- 1. 鋼構造部材の簡易型継手の開発に関する研究
- 2. 鋼構造建築物の耐震診断手法に関する研究
- 3. 鋼構造建築物の生産管理に関する研究
- 4. 鉄筋コンクリート建物の耐震診断に関する研究
- 5. 有限要素法による弾塑性解析法に関する研究
- 6. 構造メディア教材の開発に関する研究

千葉 正裕 教授〔論文〕 巧 助教〔論文〕 日比野

振動システム研究室

- 1. 耐震補強効果の評価手法に関する研究
- 2. 細長い平面形を有する建物の多点常時微動測定
- 3. 建物の近似振動解析法に関する研究
- 4. 情報研究棟およびその周辺地盤における地震動観測
- 5. 郡山市域の地盤および建物の振動性状に関する研究
- 6. 建物・杭・地盤連成振動系解析に関する研究
- 7. 各種構造解析プログラムの開発

G・ブンタラ・ステンリー 准教授 [論文]

コンピューテーション応用力学研究室

- 1. 遺伝的アルゴリズムを利用した建築構造物の最適化に関 する研究
- 2. 無重力状態で自己釣合い・自己展開できる構造物の研究
- 3. 建築構造物と鋼管杭による地盤沈下防止・免震効果の研究
- 4. 住宅のため低コスト・低メンテナンス免震・制振装置の
- 5. 3次元地盤・構造物の地震時挙動シミュレーション的研究
- 6. 地盤, 基礎と構造物の相互作用を考慮した大型模型振動 実験と解析的研究
- 7. 3次元CADと構造解析ツールの統合化に関するソフト開発

野 内 英 治 准教授〔論文〕 空間構造システム研究室

- 1. 空間構造に関する研究
- 2. 構造物の非線形解析に関する研究
- 3. 構造物の崩壊解析に関する研究
- 4. 各種プログラミング言語を用いた構造解析ソフトウェア の開発
- 5. 耐震設計法に関する調査・研究

計画・環境系

■建築計画・設計

湯 本 長 伯 教授〔論文・設計〕

建築文化・社会構造設計研究室

- 1. 建築計画全般に係る設計情報・設計方法研究
- 2. 深い社会文化性を持つ建築種別(教会・美術館博物館 等) の設計実践
- 3. 建築都市インテリアの空間文化を届けるエンドユーザー 教育研究
- 4. 産学連携・異種連携による知の生産と活用研究
- 5. 知的財産権を包含する知的資産の形成と活用研究
- 6. 知の蓄積と活用を設計する哲学(知の科学)研究
- 7. インテリアコーディネーションの資格・職能研究 〔設計〕

インテリア設計による病院病室環境向上と看護成績研究 美術館の類別再生・活用設計(事例調査+再生設計) キリスト教会の類別再生・活用設計(事例調査+再生設計) アートワークを中心とした地域活性化 (いずれも、具体例でも概念設計でも良い)

給 木 晃 教授〔論文・設計〕

福祉居住計画研究室

高齢・単身社会に対応した居住に関する研究と計画

- 1. 日本の「バリアフリー」概念
- 2. 介護保険の住宅改修
- 3. 加齢対応住宅の要件
- 4. 在宅ケアにおける住環境情報の収集記録技術
- 5. 住宅内事故(転倒事故、入浴事故、熱中症など)
- 6. 単身社会の生活環境の構成要素
- 7. 農村住宅の快適性の評価

渡 部 和 生 特任教授〔設計〕 空間デザイン研究室

- 1. 近代建築の空間デザイン上の再考
- 2. 設計デザインのタイプ別考察
- 3. これからの現代建築の展開の考察
- 4. 実際の建物を見ながら空間デザインを確認する

浦 部 智 義 准教授〔論文・設計〕 建築計画研究室

- 1. 劇場・コンサートホールに関する多角的な研究
- 2. 文化・医療など施設計画・評価に関する研究
- 3. 農村舞台など地域資源の役割・活用に関する研究
- 4. 建築・都市における空間知覚・認知に関する研究
- 5. 二地域居住や中山間居住に関する研究
- 6. 環境デザイン・パッシブ建築に関する研究
- 7. 震災後の復興・復興住宅・まちづくりに関する研究 〔設計〕社会的効果・計画手法・空間演出など何らかの 説得力のある提案

市 岡 綾 子 専任講師〔論文・設計〕 住環境計画研究室

- 1. 居住空間, 住環境, 子育て環境に関する研究
- 2. 学校施設, 学習環境に関する研究
- 3. 子どもを中心とした環境行動に関する研究
- 4. 空間イメージ・空間認知に関する研究
- 5. 東日本大震災後の復興に関する研究
- 6. 地域におけるまち資源の活用に関する研究
- 7. 地域住民との協同によるまちづくり

■歴史・意匠

速 水 清 孝 准教授〔論文・設計〕 建築歴史意匠研究室

- 1. 福島県の建築・都市を中心とする東北地方の近代に関する研究
- 2. 福島県の歴史的建造物の発見・維持・保存に関する活動
- 3. 日本の近代を中心とする建築の歴史に関する研究
- 4. 建築家を中心とする建築技術者の職能と法制に関する研究
- 5. 建築技術者の人物史に関する研究
- 6. 建築家の作家論に関する研究
- 7. 建築技術の歴史に関する研究

〔設計〕持続可能な社会に向けたプロトタイプとなり得る建築,ないし特殊解としての建築の提案

山 岸 吉 弘 助教 〔論文・設計〕 建築歴史意匠研究室

- 1. 建築・都市の歴史に関する研究
- 2. 町並みの保存と活用に関する研究
- 3. 大工の技術と組織に関する研究 [設計]

「歴史」という発想を踏まえた建築や都市へのアプローチ

■環境工学

濱 田 幸 雄 教授 〔論文・設計〕 環境工学研究室

- 1. 生体音響信号の測定・分析手法に関する研究
- 2. 応急仮設住宅の遮音性能改善手法に関する研究
- 3. レーザードップラー振動計の応用技術に関する研究
- 4. 音楽練習室の音響特性に関する研究
- 5. 床衝撃音の評価方法に関する研究
- 6. 風車音の測定方法に関する研究

■都市計画・設計

三 浦 金 作 教授 [論文・設計] 都市計画研究室 (都市・環境デザイン)

- 1. アーケードのある街路の空間構成に関する研究
- 2. 探索歩行時の注視に関する研究
- 3. 街路景観に関する研究
- 4. 都市公園に関する研究
- 5. 広場・オープンスペースに関する研究
- 6. 都市景観に関する研究
- 7. 西欧都市構造に関する研究 〔設計〕都市デザイン・まちづくり・建築設計

土 方 吉 雄 准教授〔論文・設計〕 都市計画第一研究室

- 1. 都市の土地利用に関する研究
 - 1) 土地利用計画・都市マスタープラン
 - 2) 中心市街地の更新
- 2. 住宅・居住環境整備に関する研究
 - 1)都心居住・住宅マスタープラン
 - 2) 環境共生住宅地
 - 3) 子どもの遊び環境
 - 4) 街並み景観ワークショップ
- 3. 都市設計・まちづくり・建築設計

新 任 の 先 生

教授鈴木 晃

担当科目:建築計画

本年4月より、日大郡山の建築学科に加えていただくことになりました。建築学の教育畑とは無縁の環境に長く身を置いていたため、

リハビリテーションに若干の時間を要しております。そろそろ本格的に始動する所存です。ご支援をいただくためにも、何者であるかを少し紹介させていただきます。 1980年前後に横浜の工学系建築学科の学部と修士課程、80年代半

1980年前後に横浜の工学系建築学科の学部と修士課程、80年代半ばに神戸の大学院博士課程を終えた後、東京都老人総合研究所、国立公衆衛生院建築衛生学部で、高齢者の居住環境、住まいと健康問題を主要テーマに細々と研究を続けてきました。昨年3月まで在籍した国立保健医療科学院(公衆衛生院から2002年に改組)は厚生労働省の研究教育機関で、公衆衛生技術者(保健所等で活動する医師・保健師・獣医師・薬剤師など)の能力開発(研修)と、それに必要な研究を行ってきました。人が健康に暮らすためには、建物にも基本的な役割があります。劣悪な環境下にあった大都市に人口が集中したイギリス産業革命、公衆衛生が感染症対策として登場しましたが、その最重要課題は都市や住居の衛生対策であったことを思い出していただくことはさほど難しいことではないでしょう。

むろん現代日本では、少なくとも平時においては、いわゆる不衛

生環境の問題は克服されてきており、「住まいと健康」問題の課題は多様化高度化しています。私のこれまでの狭い分野での専門といえば、在宅ケアの「宅」に関する課題、たとえば介護保険の住宅改修の質確保のための、ケアマネジャーの人材育成に関わる研究ということになるでしょう。したがって、建物を建てる技術ではなく、健康で自立して住む技術を、建築技術者向けではなく、公衆衛生や社会福祉関連の生活支援者向けに教育してきたことになります。

というわけで、建築技術者を養成する大学教育は私にとって、そ れを授かる側にいた30年以上前以来のことになります。浦島太郎も 4月以降少しずつ自らの立ち位置を確認しようとしています。大学 院の講義では自らの生活環境や職歴・居住歴を披露することで、皆 さんが何に関心を持ちどんな環境で暮らしているのかを探ろうと しました。郡山の44㎡の単身赴任アパートは贅沢だと思われないか 心配になり、「清家清(せいけ・きよし)の住宅適正規模論」(家族 の年齢を合計した数字に㎡を付ける)を紹介して予防線を張りまし た。その結果、44mの単身暮らしは郡山では贅沢とは思われない こと(30㎡くらいのアパートに暮らしている大学院生もいる)、確 か日本建築学会長もした清家清は時代遅れであまり知られていな いことなどを知りました。2年生の建築設計演習では、最近の学生 は喫茶店に行かないこと、(貸し) ギャラリーを知らないこと、祖 母は息子夫婦と同室就寝もあり得ると思っている人は一人だけで はないことを学びました。まだまだ知らなければならないことは多 そうです。

特任教授 渡 部 和 生

担当科目:建築設計演習

この4月より着任しましたが、以前から非常勤講師として、日本大学工学部の

皆様には大変お世話になっておりました。郡山は生まれ育った故郷であり、日本大学工学部の先生方にコンペで選定頂いた代表作は、福島県内に建築されております。郡山市内の太田綜合病院さんとは、設計を担当した修業時代を含めると35年のお付き合いになります。

郡山の家族や市議会議員だった父の夢は、郡山に理系の大学、すなわちこの日本大学工学部を誘致することだったそうで、市民グループと東京に陳情に行ったことなど聞かされた思い出があります。ご縁があって、このような大役を担うことになりましたが、亡くなった郡山の両親たちも喜んで見守ってくれていると思います。

今年は、大学院生の授業も担当させて頂くことになり、昨年、4年生の設計課題を受講してくれた方々と久々に再会することができました。これまで、やや短く感じた、卒業設計に対するクリティークも、少し私なりの言葉を添えることができました。大学院の皆さんの話しを聞くうちに、当然のことながら、昨年からの人間的な成長に驚かされました。フリーディスカッションの内容もしっかりしており、こちらが教えられることも多いのに気づきます。3年生の演習の中で、私が実際に設計した建物を見て頂く機会があり、段取りして下さったクラス担任の先生のご好意によって、大学院生も同行させて頂くことになりました。皆さんと一緒に建物を見る楽しさと、自ら設計した建物を見られる、程良い緊張感を覚えました。初めてお会いした学年の皆さんと、かつて一緒に建築を思考した大学院の方々と、同じ時間と空間を共有したのは貴重な体験でした。

以前、私の課題を受講した卒業生からの年賀状に、新建築社の「住宅特集」に作品を発表するという言葉が書かれておりました。掲載されたグラビアを拝見し、印象を本人に伝える機会がありました。その作品は、県の住宅建築コンクールでも最優秀賞を受賞されました。卒業生のグラビアを見る時、自分が設計した作品の発表の時よりも、ハラハラ・ドキドキしたのを覚えています。このような胸のときめきは、またいつか体験できると思っております。これからは、自分の作品の発表や建築賞の受賞だけでなく、一緒に設計に取り組んできた学生や卒業生の皆さんの活躍が大きな糧になるような気がしております。

皆さんとの出会い、学内での再会、また卒業生の活躍を垣間見るなど、様々な人や建築との出会いが生まれそうです。 そのことが建築設計と教育を通じての、これからの私の大切な目標になると感じております。教えることよりも、私の方が気づかされることが多いと思いますが、今後とも宜しくお願い致します。

助教山岸吉弘

担当科目:日本建築史



今春(2014年)、工学部に建築学科の 教員として着任いたしました。4月なお

寒く風の強い郡山の気候は想像以上でしたが、5月になり新緑が芽吹く頃になると、遙かに見渡せる周囲の山麓の色彩に目を奪われました。東北地方での生活は初めてですが、豊かな自然と長い年月を経て形作られた風土にあこがれを持って、3月末に離京いたしました。

私は「建築史」という学問領域で研究をしております。本を読み、建築を訪ね、悠久の時の流れに思いを馳せるというのが私の役割です。瓦屋根は苔むし、柱や梁の木肌は風雨に晒されてひび割れている建物を目前にして、大勢の大工が槌音を轟かせている光景を思い浮かべれば、千年の時を超えて佇む姿に言い得ぬ感動を覚えます。

日本建築史の講義では、初学者に最適の教科書をいくつか紹介しますが、それでも記されている内容は建築史の一部に過ぎません。受講した後で、如何に建築史的体験をすることができるか、に成否がかかっていると今は考えています。「歴史」という観点から、建築を見て感じる勘を養うことを目指してほしいと願っています。

私が学生の時には、夏休みになると京都や奈良へ建築見学旅行に出掛けました。当時はあまり勉強をしなかったので大した知識もないのですが、ただひたすらに歩いては寺院や神社などを巡って古建築を見て回りました。上賀茂神社では、緑の杜、朱の鳥居、白の参道、青の空が近代日本画のような構成を作っていたことが印象的でした。詩仙堂では、日本建築の繊細で詩的な細部の作りに文学的な情趣を感じました。中でも東福寺の開山堂を訪れたときは、その建築空間に強烈なインスピレーションを受けました。

開山堂は、紅葉で有名な渡月橋を渡った先にある石段を登り切ったところにあります。門を潜ると、池泉式と枯山水式の庭園が対峙する先に堂があり、屋根の上に乗る楼閣が目に止まります。およそ一間四方の小さい楼閣には、引き違い建具の障子が嵌められており、その先に室内があることが分かります。

開山堂を訪れた時、障子は閉められていましたので、楼閣に人がいたのかは分かりません。おそらく誰もいなかったことでしょう。ですが、今にも障子が引かれ、中から人が顔を出しそうな、そのような想像が自ずと湧いてきました。そのように感じた瞬間に、独特の緊張感によってその場が支配され、空間に張り詰める何かを感じました。

空間は建築によって生成されますが、おそらくそれだけでは不十分で、そこには人の気配や息遣いといった要素が必要なのだと、開山堂を訪れた以後は考えるようになりました。そのような目で日本建築を見てみると、腑に落ちることが多々あります。なるほど、日本建築は人の存在を中心に空間が作られているのだ、と感じるようになりました。それは使い勝手がよいとか、間取りが機能的であるとか、そういう直接的なことではなく、より人間の生活を豊かにするために、建築空間が積極的に関与するということです。

私は伝統的な日本建築で生活したことがありませんので、いずれ肌身を持って空間を体験することを実現させるつもりでいます。

非常勤講師 宇都宮 雅 人

担当科目:建築職業倫理特論

非常勤講師を勤めさせて頂きます 【うつのみやまさと】です。

郡山キャンパスの桜並木を歩きました。

桜は、春の気配を感じ、人知れず咲き出します。そして野と山々を伝い、どこまでも呼応する純白のオブジェのように、大地を駆け抜けます。私たちは、この風景に、あたかも建築技術の伝播のような空間の広がりと、悠久の時間を感じているのではないでしょうか。

Sustainable Buildingの時代が到来し、地球環境と人間の健康に良い技術と知恵を駆使し、省エネルギーや環境性能を向上させた建築が、世界中で興りはじめました。私たちの取り組みも実を結び、新たな環境共生生活を創りだし、世界と連携してSustainable Societyを達成する日々が、到来するにちがいあり

ません。

私は、傑伊藤喜三郎建築研究所に勤務し、医療福祉建築を専門にしていますが、「健康」を大切にし、豊かな文化を育む生活を、市井の日常の中で連携して創りだすことが、最も貴重なことと感じています。また「自然の気候風土に生き、住まいの知恵を生かした伝統建築の心意気」にも学び、現代の技術と知識を駆使して、住まいと環境の持続可能性を達成させる視点こそが、大切なことだと感じます。

そして私たちは、Sustainable Hospitalを創り、健康情報と環境情報とを双方向で結びLogisticsと連携して、Smart Health Care Cityを実現し広めることで、近未来の超少子高齢化社会を堅実に過ごすことができます。

さらには、自然災害時の健康維持の目標を、近隣のみならず、 遠隔地どうしの予めの連携と、瞬時の情報の共有化で、達成さ せなくてはいけません。

さまざまな分野の方々と連携し、和を広げ、「健康に良い建築と環境」を創ることを目標としています。

非常勤講師 檜 山 延 雄

担当科目:建築設計演習

今秋より設計・製図で皆さんのお手伝い をさせていただく、檜山延雄です。宜しく お願いいたします。

いわき市内で設計を行っております。

特に専門分野はなく、請われた設計をひとつひとつ、出来るだけ丁寧に行っております。

皆さんにとっては当たり前のことかと思われますが、実際に設計をやって行く中で、このことが一番難しいことかもと感じています。誰のために何を設計するのか、毎日、自問する日々です。

設計は良く聞くことと言われています(ほんと?)与えられる土地もその周囲・風景も何も話してくれません。建て主は予算や規模、面積(重要です!)数字で示してくれますが、家族や隣近所のこととなると、なかなか語られません。おじいちゃ

んやおばあちゃんは打ち合わせ出てこない場合もあります。 たっぷりと時間が必要な場合もあります。この間の基本設計は 設計の中でも重要な部分です。

設計図面・図書はコミュニケーションの方法のひとつです。 建て主に向けてのものであったり、工事をする人のものであったり、模型やパース、写真、3D画像等、頭の中で考えたものを伝えるツールのひとつであります。

たぶん図面でなくとも、これから作ろうとする物が作ろうと する人に伝わればその手段は何でも良いのです。実際、建築の 現場では、言葉やスケッチ、メモ、身振り手振りまでもが職人 さんに伝えるツールとなっています。

設計上の様々なハードルを越えて、建物が、空間が、形になってゆくときは、いつもドキドキします。一見、予定調和に見える設計ですが、建物のスケールが人間の大きさを超えているからなのか、ダイナミックで、感動があります。

設計するときは悩んだり、立ち止まったり、苦しかったりの 連続ですが、山登りのような楽しさがありますよ。

非常勤講師 米 田 正 彦

担当科目:建築職業倫理特論

今年度非常勤講師として、湯本長伯先生 のもとで大学院の講義を担当させていただ きます米田正彦です。

私は大学院修了後、坂倉建築研究所に9年ほど在籍させていただき1998年に独立しました。現在は東京都文京区にて建築設計事務所を主宰しています。

私は独立してから住宅を主に、共同住宅や葬祭場、その他の 建築を手掛けてきました。また、最近では、文京区内の、建築 の耐震、防災まちづくりの活動にかかわっています。そして、 今年から区の景観審議にも携わることになりました。

私は建築を設計する際、建築デザインを支えている構造や設備等の技術について考えることが好きです。このことは事務所の設計方針にも反映されています。私たちは技術に注目し、技



術間の関係から導かれる合理性を建築全体のデザインに生かし、 優れた機能と創造性をあわせもつ建築を目指しています。

このような設計スタイルと、私の様々な設計経験から、私は構造と設備の一級建築士、その他建築に関係する資格をいくつか取得してきました。それらの資格は、設計全体を総合的にとらえ、まとめてゆくうえで大いに役立っています。そして、これまでの設計における思考錯誤をとおして、建築の「もの」としての価値から、建築を使う人間の心を満たすことの価値へと、建築のとらえかたが少し変わってきました。また、防災まちづくりへの貢献など新たな展開が見え始めているところです。

今回の講義では、変化し続ける社会環境に対して、建築設計が適切に応答しなければならないことを最低限の倫理ととらえ、設計業務について、私の作品を事例に、これまで培かってきた個々の技術と、それらを統合し全体に貢献する合理性を確保してゆくプロセスについて、わかりやすく説明してゆきたいと考えています。よろしくお願いいたします。

第30回福島県建築文化賞(復興賞)を受賞して

浦部智義

この度、平成25年度(第30回)福島県建築文化賞(復興賞)を賜ったことは、身に余る光栄であり、個人的にも「ロハスの家」プロジェクトチームとしても様々な意義を感じております。過去の受賞作品を拝見すると、福島を代表するのみならず全国的にも評価されている優れた建築物ばかりで、同じく価値を評価され、末席ながらその仲間入りさせて頂ける作品の計画・設計に関われたことは、個人的には非常に嬉しく思います。

そして、プロジェクトを通して多くの素敵な方々に出会え、新しいモノの 見方を勉強させて頂きました。その様な体験をさせて頂いた、機械や土木工 学科の先生方、協働して下さいました外部の方々、また、何と申しましても (既に卒業・修了して各方面で活躍している人もいますが)一緒に葛藤して くれた研究室の学生さん達に、この場を借りて御礼申し上げます。

また、この受賞の新聞記事で、学部長(建築・出村先生)が「本学コンセプト「ロハスの工学」の象徴的研究施設の受賞は大きな喜び」とコメントされたことは、プロジェクトチーム一同で本学の研究・教育に貢献できた喜びと安堵感、また、今後に向けて身の引き締まる思いを共有しております。

「ロハスの家」プロジェクトに関わって以降、環境建築に関する私自身や研究室としての取り組みは、「ロハスの家」コンテンツの木造仮設集会施設への展開、小規模コミュニティ型木造復興住宅技術モデル群への発展、施設建築などのプロジェクトを通して、木を中心とした材料や工法も含めた環境と建築のあり方、その中での「ロハスの家」コンテンツの可能性などを継続して探っております。まち中に実際に存在する建築プロジェクトを通して、その可能性や問題点を整理できればと考えております。

さて、10年ひと昔とか、石の上にも3年など、10とか3とかは何かと一区切りにする数値ですが、振り返ってみれば今回の出来事は、日大工学部に赴任して10年目、震災後3年を経ての出来事でした。自身や研究室としては、前者は活動・研究の1つの方針、後者は復興に向けての取り組みの方向性を、それぞれ色んな意味で再確認できたと考えています。それらを前向きに考えて、また周りの方々と共に色んな良い体験が出来る様に、今後とも自身や研究室の活動・研究の励みにしたいと考えております。



「ロハスの家」3号



ロハス仮設集会施設



小規模コミュニティ型木造住宅技術モデル群

建築設計演習Ⅲ 建築作品見学会報告

渡部和生先生の作品見学会に参加して

建築学科3年 佐々木 慶 明

5月8日、私たち3年次アーキテクトコースの学生を対象に、渡部和生先生設計の建築作品見学会が催されました。これに先立って4月に行われた講義以来、私はこの見学会を楽しみにしていました。この日の見学先には、かねてより「いつか中を見てみたい」と友人と話していた「福島県立郡山養護学校」(2001、日本建築学会賞)と、講義で目を奪われた「太田綜合病院附属看護専門学校」(2002)があったからです。

いずれも、用途からは想像できないくらい明るく、光の採り方と人の動きの対応をどのように演出するかがテーマとなった建物でした。その鍵となる装置がスロープで、複雑なプロセスを経て建替られたことを微塵も感じさせない前者では、建物中央の円筒形の吹抜の周壁に沿って、かたや後者は、敷地北面の緑道(せせらぎ小道)に向けた吹抜の曲面ガラス壁に沿って設けられ、その扱いは同じようでいて対比的な、一卵性双生児のように思えるものでした。

また、美しいばかりでなく、隅々まで細やかな気配りが行き届き、完成から10年余りを経てなお、利用者に愛され続けている様子を肌で感じられたこと、そして、設計者ご本人に加え、施工を担当された本学〇Bの中川西明さんの解説付きで見ることができたという点でも、贅沢な機会でした。



作品の説明を聞く (県立養護学校にて)

術

*届け出があった記事を掲載

- · Nguyen Dinh Kien and Buntara Sthenly Gan, "Large deflections of tapered functionally graded beams subjected to end forces", Applied Mathematical Modelling, Vol.38, No.11-12, 2013.
- · Dinh-Kien Nguyen, Buntara S. Gan, and Thanh-Huong Trinh, "Geometrically nonlinear analysis of planar beam and frame structures made of functionally graded material.", Structural Engineering and Mechanics, An International Journal, Vol. 49, No. 6,
- · Thi Ha LE, Buntara Sthenly GAN, Thanh Huong TRINH and Dinh Kien NGUYEN, "Finite element analysis of multi-span functionally graded beams under a moving harmonic load", Bulletin of the JSME, Mechanical Engineering Journal, Vol.1, No. 3,
- ・八木将太郎、齋藤俊克、出村克宣、「竹補強セメントモルタルの凍結融解抵抗性に及ぼす竹補強材のエマルション処理効果」、セメン ト・コンクリート論文集, No.67, pp.501-506, Feb. 2014. ・十文字拓也, 齋藤俊克, 出村克宣,「ビニロン短繊維及び微細繊維を併用した繊維補強ポーラスコンクリートの凍結融解抵抗性」, セメ
- ント・コンクリート論文集, No.67, pp.514-520, Feb. 2014.
- ・渡辺宗幸、飯野将広、齋藤俊克、出村克宣、「新規な防せい性混和材を用いたポリマーセメントモルタルの基礎的性質」、コンクリート 工学年次論文集, Vol.36, No.1, pp.256-261, June 2014.
 ・八木将太郎, 齋藤俊克, 出村克宣,「石灰岩砕砂を用いたポリマーセメントモルタルの基礎的性質」, コンクリート工学年次論文集, Vol.36,
- No.1, pp.1516-1521, June 2014.
- ・十文字拓也,齋藤俊克,出村克宣,「繊維補強ポリマーセメントモルタルを結合材としたハイブリッド型ビニロン繊維補強ポーラスコ ンクリートの曲げ性状」、コンクリート工学年次論文集、Vol.36、No.1, pp.1666-1671, June 2014.

論 文 表

*届け出があった記事を掲載

○高田潤、Buntara S. Gan

○近内雄斗、Buntara S. Gan

■日本建築学会東北支部研究報告会

・Ant Colony Optimization(ACO)によるトラス構造の最適化への応用

- ・NURBS 関数を用いた円弧梁の形状関数に関する研究
- ・Rayleigh-Ritz 法を用いた多自由度振動方程式の動的縮小法に関する研究
- ・石灰岩砕砂を用いたポリマーセメントモルタルの強さ性状及び耐硫酸塩性
- ・ポリマー混入ハイブリッド型繊維補強ポーラスコンクリートの凍結融解抵抗性
- 自己修復システムを用いたRC 構造物の長寿命化に関する検討 鉄筋腐食に対する抵抗性
- ・鉄粒粉を用いた高密度モルタルのγ線遮蔽容器適用性評価
 - 〇鈴木 裕介、PAREEK Sanjay、木村健一、荒木慶一、藤倉裕介

日時:平成26年6月21~22日 会場:日本大学工学部70号館

■12th International Conference on Steel Space & Composite Structures

日時:平成25年5月30日 会場: Prague, Czech Republic

· Large displacement analysis based on the co-rotational approach for functionally graded planar beam structures

Buntara S. Gan and Dinh-Kien Nguyen

○児玉亜由美、倉田光春、Buntara S. Gan

○八木将太郎、齋藤俊克、出村克宣

○齋藤俊克、十文字拓也、出村克宣

○尾形雅人、Sanjay PAREEK

- ■1月26日,浦部准教授及び浦部研究室が 計画・設計に関わった『「地形舞台」-中 山間地過疎地域に寄り添う集落づくり拠点 - 』が日本建築学会東北支部の第34回東北
- 建築作品賞を受賞した。 ■横田貴大君 (浦部研) の卒業設計「消え ゆく住まい―共有化へのプロセス―」が, 3月9日、せんだいデザインリーグ2014卒 業設計日本一決定戦で全国550以上の作品
- ■樋口卓史君 (浦部研) の卒業設計 「移動 と集約一密度の設計一」が、3月16日、福 岡デザインレビュー2014で全国350以上の 作品から16選に選ばれた。

から100選に選ばれた。

- ■浦部准教授及び浦部研究室は、3月に台 湾・中山創意基地で開催の3.11 candle n ight ~LIFE in FUKUSHIMA~(台湾名: 福島311祈福活動) に、計画・設計した口 グハウス仮設住宅とそこに暮らす人々の写 真を出展した。
- ■浦部准教授は、3月15日、第3回ロハス の工学シンポジウム「PEPな福島Kidsのた めの夢の遊び場の実現を目指して」のパネ リストとして「ロハスの工学の視点で計画 する夢の遊び場」と題して講演された。
- ■小林拓也君 (浦部研) の卒業設計「聴衆 の誕生―音・楽の器―」が、4月14日、JIA 東北支部審査を通過し、6月28・29日のJI A全国学生卒業設計コンクールに出展した。

その作品内容が,「福島民報」「郡山ザ・ ウィークリー」「ふくしまFM」, 等で取り 上げられた。

- ■浦部准教授は、4月21日、矢祭町より矢 祭小学校建設・開校準備委員会委員を委嘱 された。
- ■浦部准教授は、4月22日、郡山市より震 災後子どものケアプロジェクトチーム「子 どもの遊びと運動に関する検討会」の委員 を委嘱された。
- ■浦部准教授は、5月2日、私立大学戦略 的研究基盤形成支援事業シンポジウム「自

教室ニュース

立共生が可能な住環境を実現するための工 学技術~福島県の復興に向けた展開~」の パネリストとして「福島県の復興に向けた ロハスの家などの住環境や地域の再生に向 けた取り組み」と題して講演された。

- 5 月12日, 小峰城跡·白河駅周辺地区(応 募者:白河市,㈱楽市白河,NPO法人しら かわ建築サポートセンター(理事長土方准 教授))が国土交通省の平成26年度都市景観 大賞「都市空間部門優秀賞」を受賞した。
- ■十文字拓也君(平成25年度出村研修士修 了) は、5月16日、日本コンクリート工学

会東北支部より奨励賞(申請題目:結合材 の改質によるポーラスコンクリートの機械 的性質の改善) を受賞した。

- ■出村教授は、5月23日、ホテルグランド パレス (東京都) で開催された第5回タイ ルフィックス工業会総会において,「ロハス の工学を目指して」と題して、基調講演さ れた。
- ■浅里教授は、5月23日、ホテルハマツで 開催された建築構造技術者協会(JSCA) 東北支部総会にて、パネルディスカッショ ン「大学構造教育と設計実務の接点を探る」 の趣旨説明ならびにコーディネーターを務 められた。また、遠山貴嗣君 (M2) と清 水健次君(M1)がパネラーとして参加した。 ■速水准教授は、5月30日、日本建築学会 著作賞受賞の贈呈式に出席された。
- ■6月21日~22日,日本建築学会東北支部 主催「みちのくの風2014福島」が本学で開 かれ、吉野博学会長訪問記念講演会、研究 報告会などが行われた (参加者数:152名)。
- ■土方准教授及び土方研究室は、6月25日、 福島県より「UDのまちづくり推進事業-郡山駅前地区」を依頼され、企画運営及び 調査・WSを実施した。
- ■土方准教授と浦部准教授は、6月30日、 富岡町より、富岡町災害復興計画(第二次) 策定業務プロポーザル審査委員を委嘱され た。

築学教室教職員名簿 平成26年7月1日現在 ■専任教員 教 授 浅 里 和 茂 鋼 16号館 1階 106 (956 - 8734)構 造 教 授 葉 裕 構 学 16号館 2階 205 千 正 造 力 (956 - 8733)教 授 村 克 建 料 学 9号館 出 官 築 材 1 階 114 (956 - 8740)教 授 幸 雄 建 築 環 境 学 16号館 3階 310 (956 - 8752)濱 \blacksquare 工 教 授 浦 金 作 都 計 画 45号館 2階 207 (956 - 8753) \equiv 市 教 授 湯 本 長 伯 9号館 3階 (956 - 8749)建 築 構 法 311 教 授 鈴 木 晃 福 居 住 計 16号館 3階 (956 - 8741)祉 画 311 任 教 和 築 45号館 (956 - 8750)特 授 渡 部 生 建 設 計 3階 301 計 准 教 授 浦 部 智 義 建 築 画 9号館 3階 309 (956 - 8743)准 教 授 野 内 英 治 応 用 力 学 16号館 2 階 207 (956 - 8744)准 教 速 水 清 孝 代 築 \oplus 9号館 (956 - 8872)授 建 3階 310 近 学 S. N. パリーク 料 准 授 建 築 科 9号館 (956 - 8747)教 材 1 階 102 雄 准 教 授 土 方 吉 都 市 計 画 45号館 3階 304 (956 - 8742)ブンタラS.G. 礎 構 16号館 (956 - 8735)准 教 授 建 築 基 造 2 階 206 准 教 授 松 井 壽 則 住 宅 計 画 45号館 2階 205 (956 - 8751)専 講 師 尚 綾 子 築 45号館 3階 (956 - 8746)任 市 建 画 305 計 料 実 (956 - 8740)助 教 齋 藤 俊 克 建 築 材 験 9号館 1階 114 助 教 日比野 巧 構 力 学 16号館 2階 205 (956 - 8733)造 築 9号館 助 教 Щ 岸 吉 弘 \mathbb{H} 本 建 史 3階 310 (956 - 8872)■大学院:兼担教員・非常勤講師 担 教 授 根 上 彰 地 域 画 特 45号館 2階 207 (956 - 8753)生 計 論 担 教 授 本 杉 省 建築設計計画特論 9号館 3階 309 (956 - 8743)非常勤講師 宇都宮 雅 人 建築職業倫理特論 9号館 3階 311 (956 - 8749)夫 非常勤講師 大 内 富 建築防災工学特論 16号館 3階 309 (956 - 8730)非 常勤講師 狩 野 勝 重 築技術史特 論 16号館 3階 309 (956 - 8730)建 非 常勤講 洋 介 建築設計計画特別実習 2階 (956 - 8753)師 熊 倉 45号館 207 勤 非 常 講 師 倉 \mathbb{H} 光 春 造 解 析 特 論 16号館 2階 207 (956 - 8744)非 常 勤講 師 瓶 博 厚 建 築 意 匠 特 論 16号館 3階 309 (956 - 8730)非常勤講師 尾 博 文 建築構造設計特別実習 16号館 1階 106 (956 - 8734)濱 非常勤講師 米 彦 9号館 3階 正 建築職業倫理特論 (956 - 8749)田 311 ■学部:非常勤講師 非常勤講師 月 直 道 築 設 計 演 習 45号館 2階 205 (956 - 8751)秋 非常勤講師 回 部 直 人 築 計 画 設 45号館 3階 304 (956 - 8742)建 計 非常勤講師 倉 持 幸 由 建 築 施 16号館 3階 309 (956 - 8730)工 非 常勤講師 藤 道 男 建 築 習 45号館 2階 (956 - 8751)近 設 計 演 205 非 常 勤 講 師 境 孝 建 施 16号館 2 階 204 (956 - 8732)築 工. 佐久間 宏 築 計 習 (956 - 8742)非 常 勤 講 師 建 設 演 45号館 3階 304 非 講 英 次 建 築 構 造 設 計 16号館 2 階 207 (956 - 8744)常 勤 師 佐 藤 非 常 勤 講師 島 \coprod マリ子 建 築 設 計 演 習 45号館 2階 205 (956 - 8751)非常 中 築 習 勤 講師 田 雅 美 建 設 計 演 45号館 2階 207 (956 - 8753)非常 勤講師 富 松 太 基 建 築 企 画 45号館 2階 205 (956 - 8751)非 常 勤講師 中 尾 実 建 築情報処理演習 45号館 3階 304 (956 - 8742)夫 非 常勤 講師 野 﨑 淳 建 築 設 備 16号館 3階 310 (956 - 8752)(956 - 8746)非 常勤講 師 鍋 田 知 宏 建 築 造 形 演 習 45号館 3階 305 講 仁 構 (956 - 8744)非 常 勤 師 澤 建 築 造 設 計 16号館 2階 207 原 勤 講 非 常 師 檜 Щ 延 雄 建 築 設 計 演 習 45号館 2階 205 (956 - 8751)非 常 勤 講 平 野 朗 築 習 9号館 309 (956 - 8743)師 由 建 設 計 演 3階 非常 勤 講 師 藤 \coprod 延 幸 建 築 設 計 演 習 45号館 3 階 304 (956 - 8742)非常勤講師 松 下 房 恵 建 築 設 備 16号館 3階 310 (956 - 8752)非常勤講師 若 学 井 築 間 16号館 īF. 建 人 工. 3 階 310 (956 - 8752)典 測 習 非常勤講師 渡 澤 正 建 築 量 演 16号館 3階 309 (956 - 8730)非常勤講師 築 45号館 渡 邊 宏 銉 設 計 演 習 2階 205 (956 - 8751)■事務職員 室 事 務 小 林 まゆみ 建築学科センター 16号館 3階 309 (956 - 8730)